



～夏休みの親子の過ごし方に関する意識調査～
約8割が、今年は「親子で外出する予定が減り、範囲が狭まる」
9割以上がこの夏も「子どもをのびのびと遊ばせたい」と回答するも
約9割が「子どもの遊ぶ機会が減る」と予想

子どもの健やかな成長に「あそび」を通して貢献することを目指し、教育玩具・遊具の輸入・開発・販売とあそび場づくりを行う株式会社ボーネルンド(本社:東京都渋谷区、代表取締役社長:中西弘子)は、7月初旬に、保育園・幼稚園の年少児から小学校低学年の子どもを持つ全国の母親755人を対象に、「今年の夏休みの親子での過ごし方」についてインターネット調査を実施しました。

昨今の新型コロナウイルスの感染拡大により、親子での過ごし方や子どものあそびに関する悩みの声が聞かれます。こうした状況の中で夏休みを迎えるにあたり、子どもの成長に大切な「あそび」の在り方について、多くの方に考えていただくきっかけになればとの考えから、この度の夏休みの親子の過ごし方・あそびに関する意識調査を実施しました。

【 調査結果のポイント 】

■ 子どものあそびに対する、親の希望と実際

- 97.0%の親が子どもの成長にあそびが大切と考え、94.5%の親が夏休みに子どもをのびのびと遊ばせてあげたいと思っている
- 一方で、89.2%の親が、今年の夏休みは子どもの遊ぶ機会が減ると思うと回答

■ 親子での夏休みの過ごし方の変化

- 77.3%の親が、今年の夏休みに親子で予定を組んで出かける予定が昨年よりも減ると回答
- 出かける日数は、昨年で最も多かったのが「5日～9日」(29.5%)だったのに対し、今年は「出かける予定はない」(35.2%)が最多で、少ない日数ほど回答者が多い結果となった
- 79.1%の親が、今年の夏休みに親子で外出する範囲が狭まると回答。また、出かける範囲は、昨年で最も多かったのが「遠くの県(地方をまたぐ県外)」(43.1%)だったのに対し、今年は「県内」(35.1%)が最多で、「市区町村内」(22.0%)が次点となり、半数以上が県をまたぐ外出を控えようとしていることが分かる結果となった
- 64.6%の親が、今年の夏休み、子どもが自宅で遊ぶ時間が増えると予想

■ 親子での夏休みの過ごし方のお困りごと

- 今年の夏休み期間、94.2%の親が、子どもとの過ごし方に関する悩みを回答。その内容は「出かけられる施設や場所に制限がある」(67.5%)が最多
- 得られると嬉しい情報としては、「子どもが家の中でも楽しく過ごせる情報」(58.7%)が最多

■ボーンレンドコメント

あそびは、食べることや眠ることと同じくらい、子どもの健やかな成長に欠かすことができません。どんなときにも、子どもには、好きなことに没頭して遊ぶ時間が必要です。あそびは「これ何だろう」「やってみたい」という好奇心から始まる、自発的で自由な営みです。やりたいことだから、失敗しても誰かのせいにすることなくリトライし、そのプロセスのすべてが生きる力につながっていきます。

「with コロナ」の今、感染予防のかけで、子どもが遊び育つ機会が制限されているようです。当社が展開する店舗やあそび場でも、「様々な事情で、子どもをのびのびと遊ばせてあげることができない」という子育て家族の声を多く聞いています。

感染予防は、もちろん徹底しなければなりません。しかし同時に、新しい生活様式の中で、どうしたら子どもが遊び育つ機会を確保できるのか、その新しい方法を、社会全体で考えて実行する必要があります。今回の調査も契機にして、今の世の中で、子どもがのびのびと遊べる機会を増やす方法や、社会みんなで子どもを健やかに育ていくための方策を考えるきっかけを作っていきたいと考えています。

【 調査概要 】

調査方法：インターネット調査

調査対象：幼稚園・保育園(年少)～小学校低学年(1・2年生)の子どもを持つ、20代～40代の母親

有効回答数：計755サンプル

調査時期：2020年7月9日～7月13日

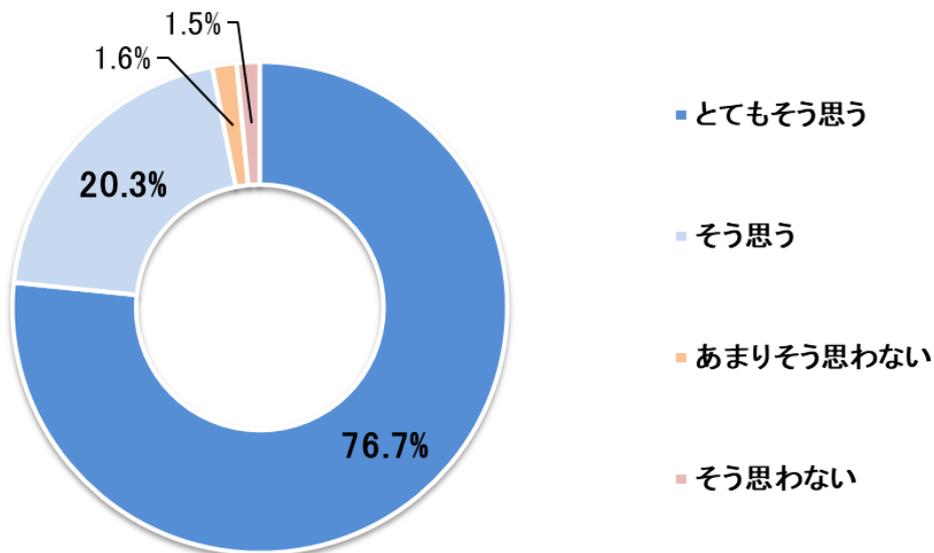
【 調査結果 】 ※構成割合は四捨五入をしているため、合計が100にならない場合があります。

子どものあそびに対する、親の希望と実際

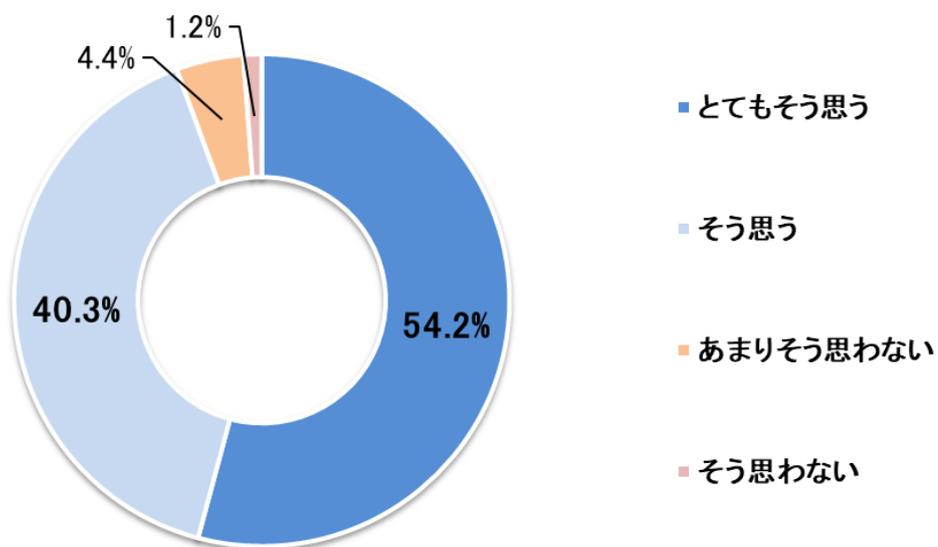
子どもの成長にとってあそびが大切であるとする親は、合計で97.0%となりました。また、今年の夏休みもできるだけ子どもをのびのびと遊ばせたいとする親は、合計で94.5%となりました。その一方で、新型コロナウイルスの影響で、今年の夏休みは子どものあそびの機会が減少すると考える親は、合計で89.2%に及びました。

※以下設問の“遊び”は、テレビゲームなどを除く、子ども自身のからだを使って行う遊びを指します

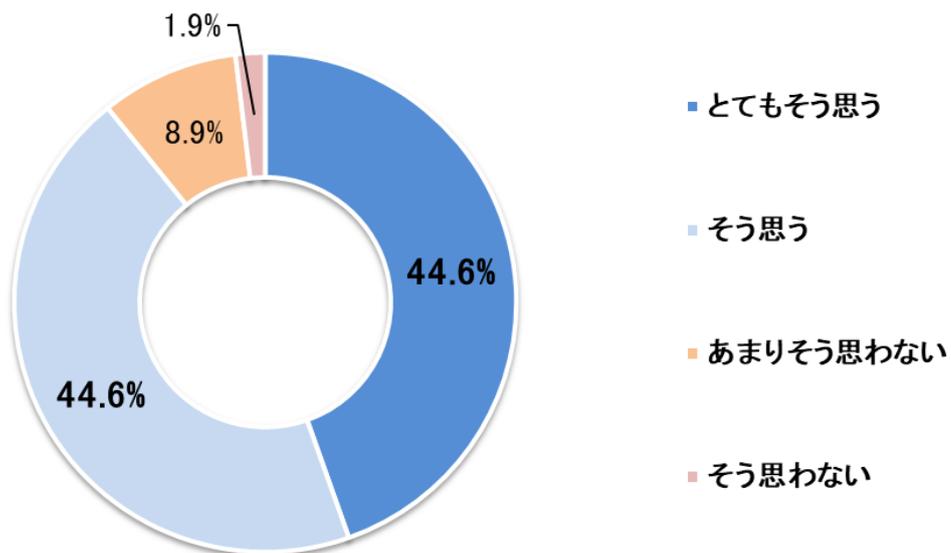
Q1. 子どもの成長にとって、遊びは大切だと思いますか。(単一回答 n=755)



Q2. 新型コロナウイルスには配慮しつつ、今年の夏休みに、できるだけお子様をのびのびと遊ばせてあげたいと思いますか。(単一回答 n=755)



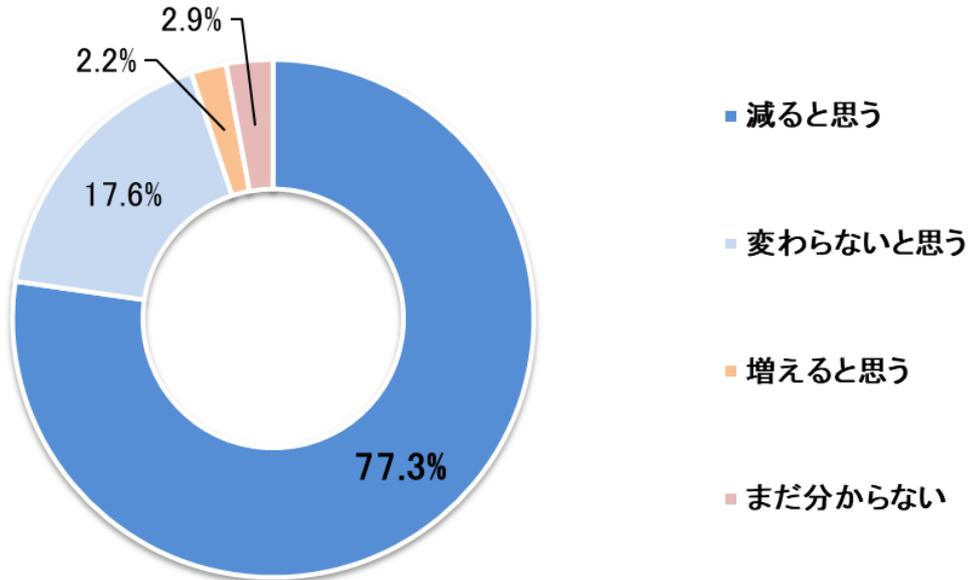
Q3. 新型コロナウイルスの影響で、昨年までと比べ、今年の夏休みはお子様の遊ぶ機会が減少すると思いますか。(単一回答 n=755)



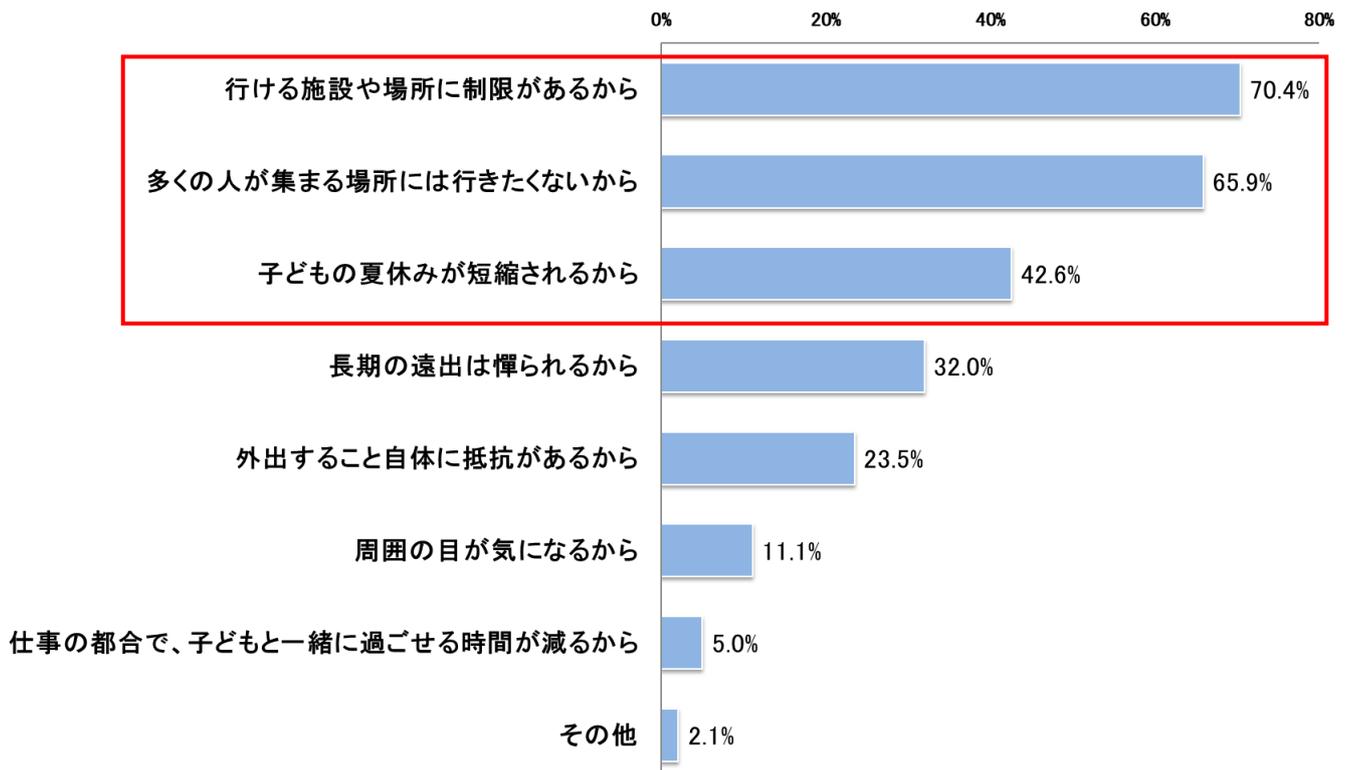
親子での夏休みの過ごし方の変化(お出かけ予定の増減)

今年の夏休みに親子で予定を組んで出かける予定が減ると答えた親は、77.3%に上りました。その理由は、「行ける場所や施設に制限があるから」(70.4%)が最多で、「多くの人が集まる場所には行きたくないから」(65.9%)、「子どもの夏休みが短縮されるから」(42.6%)と続きました。また、実際に出かける予定の日数は、昨年で最も多かったのが「5日～9日」(29.5%)なのに対し、今年は「出かける予定はない」が、昨年比約4倍の35.2%となり最多で、以降「1日～2日」(27.9%)、「3日～4日」(21.5%)と続き、少ない日数ほど回答者が多い結果となりました。

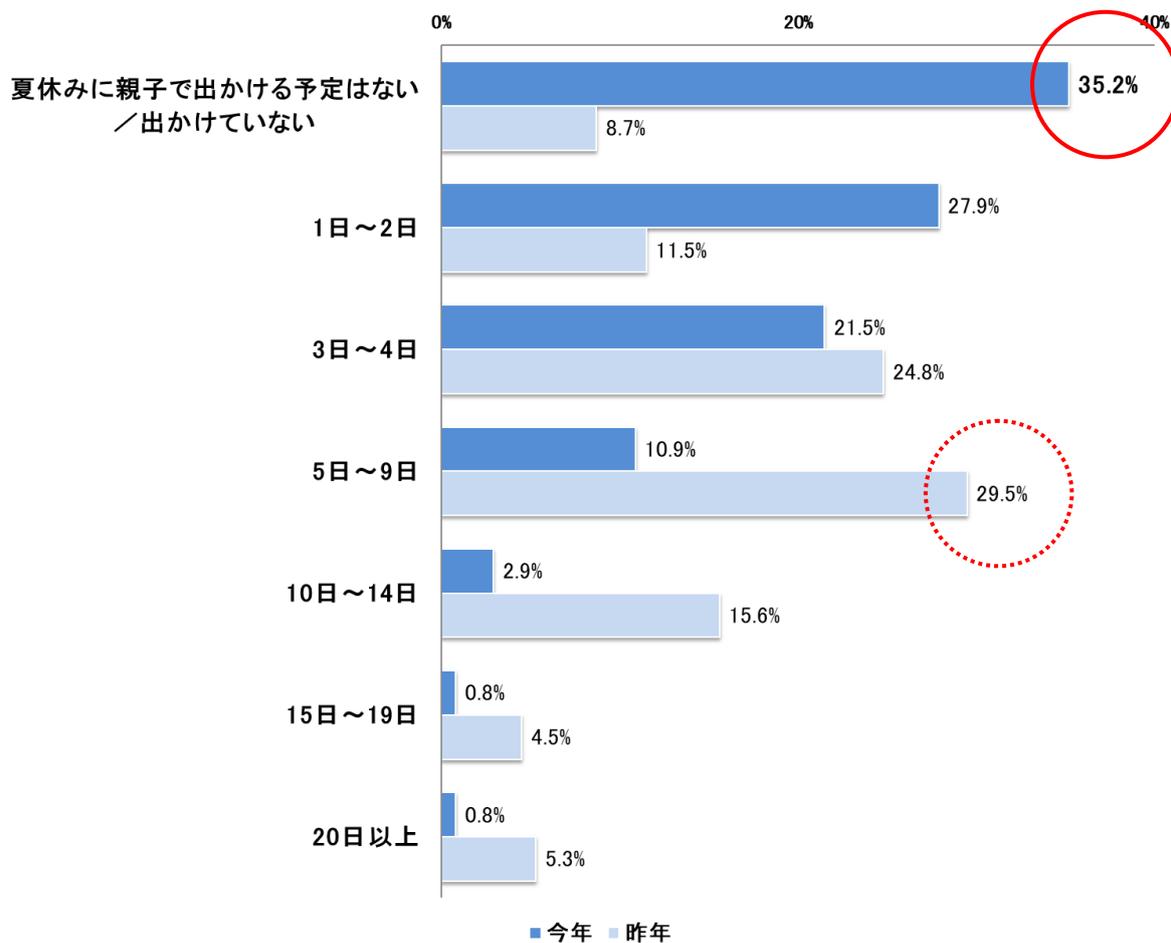
Q4. 昨年までと比べ、今年、夏休みに親子で予定を組んで出かける予定は減りそうでしょうか。増えそうでしょうか。
(単一回答 n=755)



Q5. Q4で「減ると思う」を選択した方へ: その理由はなぜですか。当てはまるものを全て選択ください。
(複数回答 n=583)



Q6. 今年、夏休みに親子で予定を組んで出かける日は、どのくらいありそうですか。また昨年、夏休みに親子で予定を組んで出かける日は、どのくらいありましたか。(単一回答 n=755)

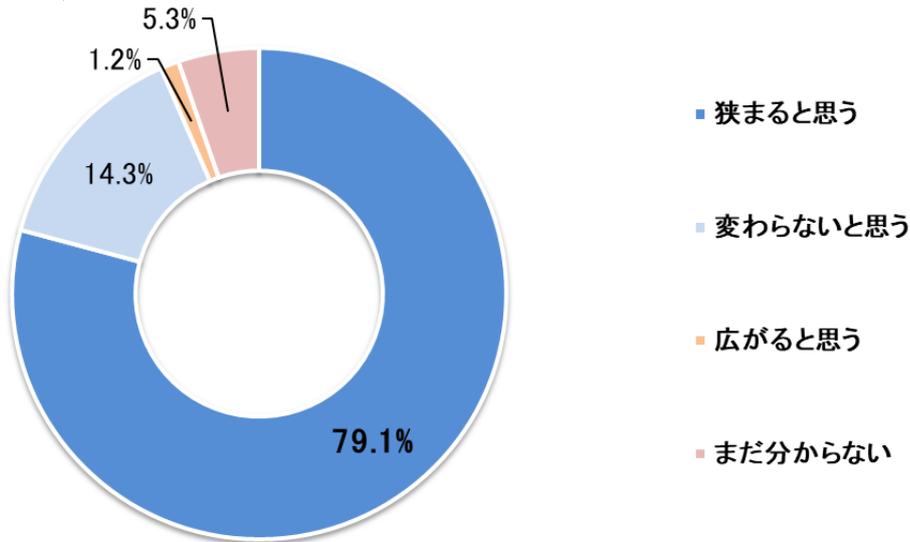


親子での夏休みの過ごし方の変化(外出の範囲)

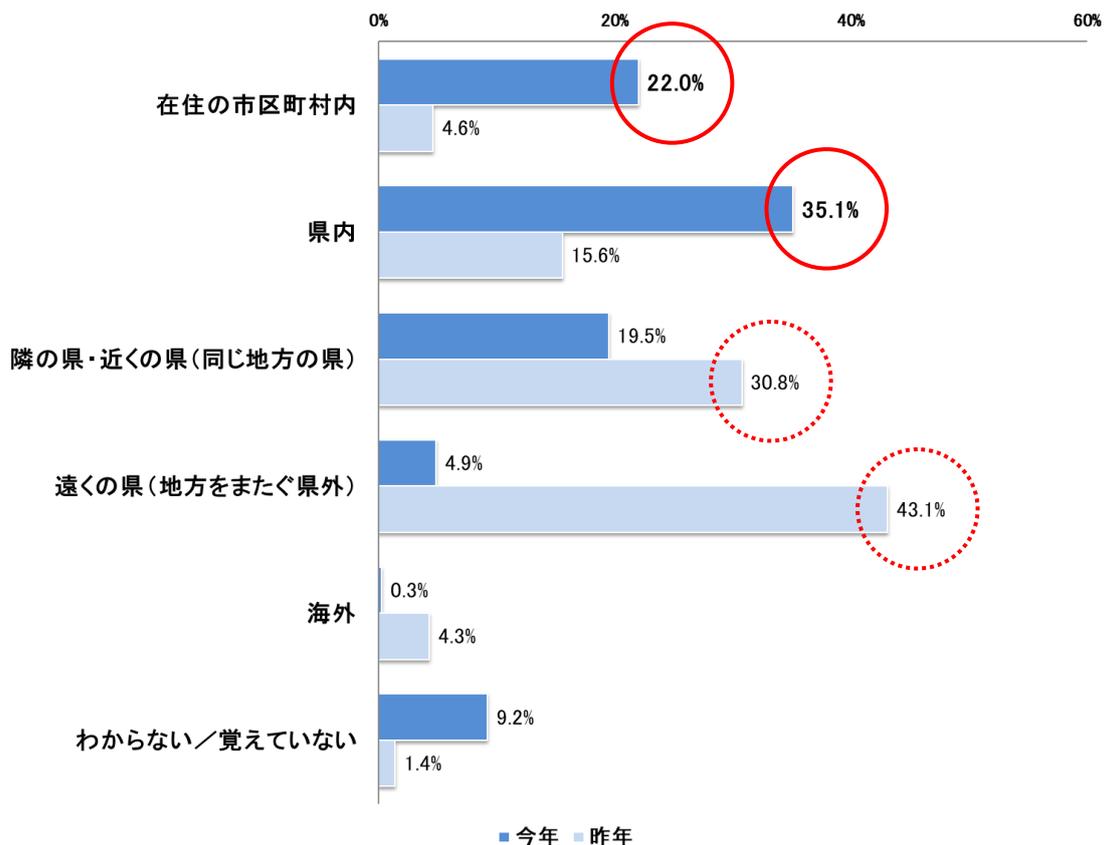
今年の夏休みに親子で外出する範囲が狭まると答えた親は、79.1%に上りました。実際に出かける範囲は、昨年で最も多かったのが「遠くの県(地方をまたぐ県外)」(43.1%)、次点が「隣の県・近くの県(同じ地方の県)」(30.8%)だったのに対し、今年は「県内」(35.1%)が最多で、次点が「在住の市区町村内」(22.0%)となり、過半数が県をまたぐ外出を控える傾向が見られました。また、今年の夏休み、子どもが自宅で遊ぶ時間が増えそうと答えた親は、全体の64.6%に上りました。

Q7. 昨年までと比べ、今年、夏休みに親子で外出する範囲(距離)に変化はありそうでしょうか。

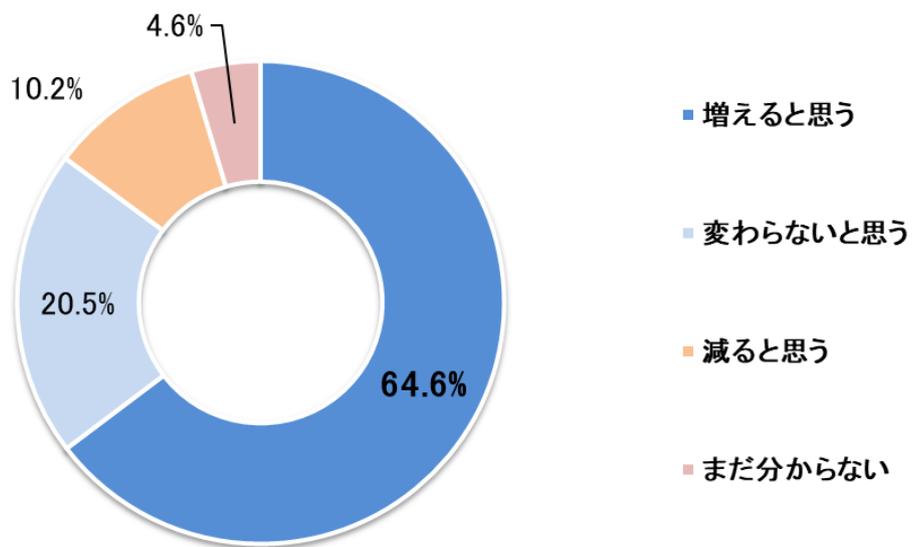
(単一回答 n=755)



Q8. Q6で今年、昨年ともに「1日以上出かける予定がある」と回答した方へ: 今年、夏休みに親子で外出する予定の範囲はどの程度までですか。また昨年、夏休みに親子で外出する範囲はどの程度まででしたか。それぞれ最も遠くの範囲をお選びください。(単一回答 n=689)



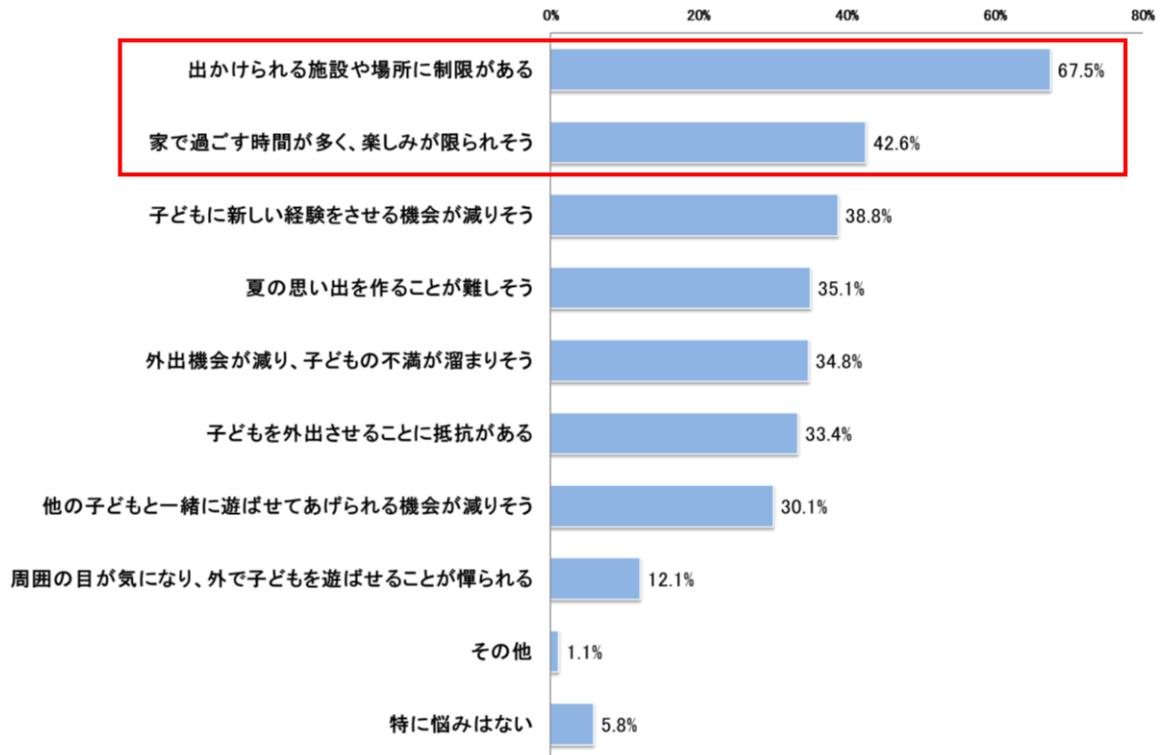
Q9. 昨年までと比べ、今年、夏休みに子どもが自宅で遊ぶ時間は増えそうでしょうか。(単一回答 n=755)



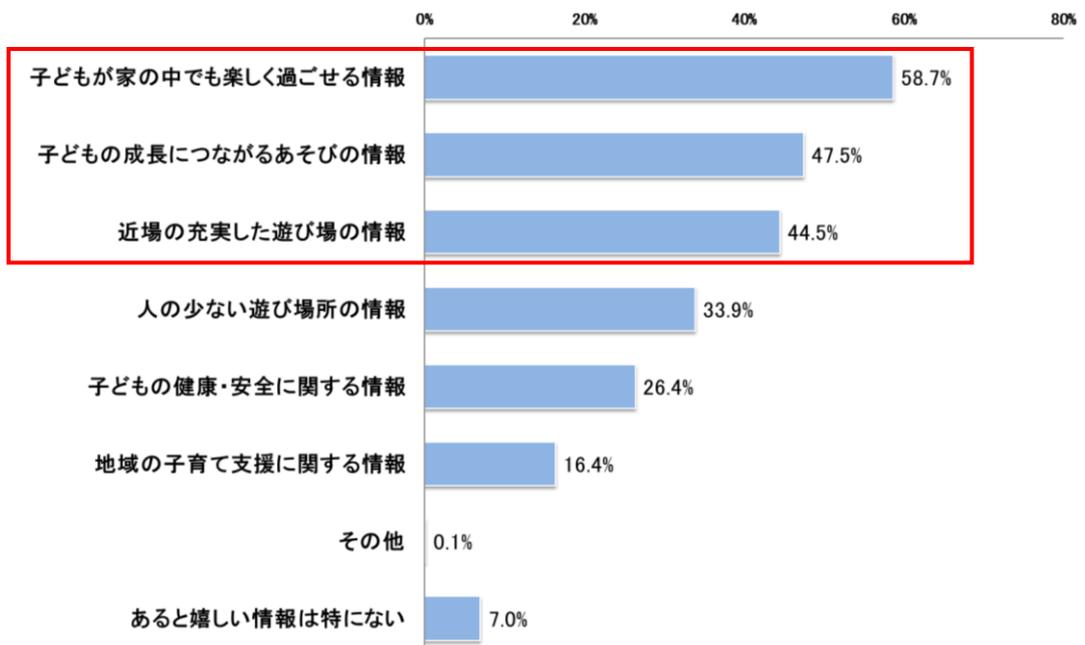
親子での夏休みの過ごし方のお困りごとについて

今年の夏休み期間、子どもとの過ごし方に関する悩みを回答した方は全体の 94.2%に上り、「出かけられる施設や場所に制限がある」(67.5%)が最多、次点で「家で過ごす時間が多く、楽しみが限られそう」(42.6%)と続きました。また、あると嬉しい情報としては、「子どもが家の中でも楽しく過ごせる情報」(58.7%)が最多、次点で「子どもの成長につながるあそびの情報」(47.5%)、「近場の充実した遊び場の情報」(44.5%)と続きました。

Q10. 昨年までと比べ、今年の夏休み期間、お子様との過ごし方に関する悩みはありますか。当てはまるものを全て選択ください。(複数回答 n=755)



Q11. 今年の夏休みをお子様と過ごす上で、あると嬉しい情報は何ですか。当てはまるものを全て選択ください。(複数回答 n=755)



【 調査結果を受けて 】

今回の調査から、今年の夏休みは、親子で出かける日数を減らし、遠出を避けて、半数以上が県内で遊ぶ予定であることが見て取れました。親としては、子どもの成長にあそびが大切と捉えている一方で、昨今の情勢から、子どもが出かけたり遊んだりできる場所が限られ、のびのびと遊ばせることができない状況への悩みや、自宅での遊び方や子どもの成長につながるようなあそびの情報を求めていることが伺えました。

当社ではこうした現状を踏まえ、夏休みが短縮されても、夏休みに子どもの成長につながるあそびの機会を提供するため、全国のボーネルンドショップとオンラインショップで、からだを動かしたり、論理的思考力や創造性を養えるあそび道具のラインナップを豊富に取りそろえたとともに、店頭や動画で様々な遊び方を提案してまいります。

また、全国で運営する親子の遊び場「キドキド」「プレイヴィル」「トット・ガーデン」では、感染予防対策を徹底しながら、子どもたちがからだを存分に使って遊べる機会を提供するほか、家族単位で参加できる作品づくりなどのワークショップも用意し、あそびを通した多様な実体験をサポートします。

加えて、8月にはSNS投稿キャンペーンを実施します。実際に子どもがいきいきと遊ぶ様子を撮影し、エピソードとあわせて投稿することで、ボーネルンドのあそび道具やオンラインクーポンが当たる企画です。夏休みの親子のあそびが充実するよう、また、親御さんの気持ちが少しでも軽くなるように応援します。

新型コロナウイルスの状況を鑑みつつ、感染拡大防止に細心の注意を払いながら、より多くの子どもたちが自宅近くでも心行くまで遊べるよう努めます。

【 ボーネルンドのあそび環境づくり事例 】

● 子どもが思い切り体を動かして、主体的に遊べる室内あそび場「キドキド」

当社では、子どもたちが楽しく遊びながら多様な体の動かし方を身に付けることができるあそび場「キドキド」の開発・運営を2004年から行っています。キドキドは、発達段階に応じた多様なあそびを存分に楽しめるよう設計した、親子のための室内あそび場です。常駐するスタッフ「プレイリーダー」が、たくさんのおもちゃの見本を示して子どもたちのあらゆる体の動きを引き出し、親子のあそびをサポート。子どもはのびのびと遊び育ち、大人は子育てがもっと楽しくなる場として支持されています。また、キドキドのノウハウは、自治体の子育て支援センターにも活用されています。



● 地方自治体との協業によるあそび場プロデュース

ボーネルンドが提供するあそび環境は、子どもののびのびとしたあそびや、人々のコミュニケーションを生むことから、地域活性化を目指す自治体から注目されています。当社では、こうした自治体と協業してあそび環境を作ることを、精力的に行っています。これらの施設には、キドキドの開発・運営の中で培われた、子どもが自身の成長に繋がるあそびを心から楽しめる、道具や仕掛けのノウハウが集約されています。



【 ボーネルンドについて 】

ボーネルンドは、あそびを通して子どもの健やかな成長に寄与するため1981年に設立し、一貫して“あそびの道具と環境”を提供する事業を展開。一般家庭へ向け、子どもの成長に必要な生活道具としての“あそび道具”を提案、全国78ヶ所で店舗を展開しています。同時に幼稚園や保育園、公園などに高品質な大型遊具や教育道具の提供を含めたあそび環境の開発を行っており、現在までに手掛けた実績は国内約3万5千ヶ所まで拡大しています。また、2004年からは、子どもが遊ぶ機会を増やすために、親子一緒に様々なあそびを体験できる屋内あそび場「キドキド」事業をスタート。全国21ヶ所、年間約277万人、「キドキド」のノウハウを取り入れた地方行政の屋内あそび場を含めると全国約30ヶ所、年間350万人以上の親子が訪れています。

【報道関係の方のお問い合わせ先】

株式会社ボーネルンド 広報室
担当: 村上

TEL: 03-5785-0860、080-5901-3591

e-mail: public-relations@bornelund.co.jp

【一般の方のお問い合わせ先(ご掲載用)】

株式会社ボーネルンド

TEL: 0120-358-518(月～金 10:00～17:00)